

災害ボランティア活動報告 (No. 40)

活動場所：宮城県亘理郡山元町作田山（被災農家：斎藤様の農地）

活動内容：今回は、人数が多いので3班に分けました。野菜のビニールハウスでの雑草取り、イチゴハウスでのツル取り、お米の倉庫でのもみ殻詰めなどです。

お子さんと参加された方々は野菜ハウス、女性の方はイチゴハウス、男性陣はお米倉庫です。収穫祭のため、炊事組として4～5名の方に手伝って貰いました。

参加者：メンバー（木下史典、森本次郎、広瀬義積、芦澤潤一、榎戸孝行、大川浩明、溝手文子）、一般参加、ネット参加のバス41名。浜松から自家用車での参加1名、飛び入り参加セブンイレブン本部社員の方1名（合計43名）

飛び入り参加のセブンイレブンの方は、いつも利用しているコンビニのセブンイレブンの方であり、うちのメンバーがレジでボランティアに来ましたとお話しすると、是非参加したいとのこと。本部社員の方で仕事が終わったので参加したいとの申し出でした。震災の時は学生であり就職してから宮城に来たそうです。関西の方で、ボランティアをしたいと常々思っていたそうです。久々に感激しました。

災害ボランティアをやっていると、いまの若者も捨てたものではないと、実感させられます。ほとんどの参加者が若者です。

活動報告：『親子で震災ボランティア体験』in 宮城県山元町、ボランティアバス第17弾です。被災農家斎藤さんにご縁がありお伺いしてから、今回で13回目です。

斎藤さんから、いつもお世話になっているので、取れたての野菜を使ってBBQをしましょうと収穫祭です。今回は、いつもと違い作業は午前中12時半までで、あとはBBQを楽しみました。

農作業の方は、親子連れはビニールハウスでの雑草取り、モロッコいんげんの枯れた畑を雑草ごと片付ける作業をしました。

女性の方々は、イチゴのビニールハウスでのツル取り作業。

男性陣は、お米倉庫でのもみ殻詰め作業でした。これがなかなかの重労働だったらしいです。農家の方々は八十八もの手間暇かけておいしいお米を私たちに提供してくれます。

農家の方々は高齢の方が多く、毎日ご飯が食べられるのはきつい作業を苦もなく行ってくれる農家の方々の賜ですね。感謝に堪えません。

炊飯組の方々は、BBQ、芋煮、おにぎりの準備でした。ここでも有り難いことにメンバーの副理事森本さんの関係で（地元のマリーンズ後援会の事務局長をやっておられ、宮城県の角田市と岩沼市のマリーンズサポーターの方々が手伝って下さいました。）お手伝いに来られた方々がいらっしゃいました。感激ですね。今回も多くの感動をいただきました。

行程：総勢41名で、10月11日金曜日の夜に、千葉県四街道駅発、西船橋駅、錦糸町錦糸公園経由で現地山元町へ向かいました。浜松から車で参加1名。

10月12日土曜日、朝食をいつもの吉野家で頂きました。今回は従業員の方が連休のためか少なく時間がかかったので、コンビニの立ち寄りや中浜小学校の視察は手短に済ませました。ここのコンビニのレジにいた方が、本部社員の方で、メンバーからボランティアに来たとの話を聞き、参加してくれました。ですので合計43名になりました。



今回の『第17回親子で震災ボランティア体験』に参加された皆様。集合写真。



親子連れの方は、モロッコインゲンのハウス：女性の方はイチゴハウスでの作業。



男性陣はお米倉庫でのもみ殻詰め:車で飛び入り参加のセブンイレブン社員の方は



左:ワイシャツとネクタイ姿で手伝ってくれました。上:炊事組の作業風景。



上:今の季節美味しいからと、わざわざサンマを購入して振る舞っていただきました。
お肉は、NPOの方が調達しました。

今回も、多くの感動がありました。有り難うございます。仕事が終わってからだとバスに間に合わないで自分の車でボランティアに参加された方。コンビニの本部社員の方が、仕事が終わった後に飛び入り参加して下さったり。宮城県のマリーンズサポーターの方が手伝って下さったり。などなど、感謝しきれないほど多くの感動が有りました。帰りのバス内で多くの方が、また、参加したいと言ってくださいました。また、近々行きましょう。感動を貰いに。 ……有り難うございました。またのご参加をお待ちしております。